

はじめに

本書は、平成一六年に開始した国庫補助事業「国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査」の報告書資料編です。本調査は、豊後国衙領国東郷の故地である大分県国東市国東町を対象地とし、平成一六年から五ヶ年計画で実施しているものです。

本報告書には、国東郷域に残る様々な歴史資料のうち、国東郷各地のムラの概況と変遷を知ることができる記録類、中世の面影を端的に伝える石造文化財資料の実測図を中心に掲載いたしました。

戦後六〇年を経て、農業の機械化、生活様式や産業構造の変化、ムラから都市へという人口移動によって、日本のムラは変貌を遂げました。こうしたムラには歴史を物語るものとして、古文書だけでなく、地名や水利、石造物や祭礼あるいは景観など、有形無形の遺産が残されています。本調査は、現在のムラに残された様々な歴史遺産を調査・記録し、現在から過去に遡及的にムラの歴史をたどり、その歴史的価値を明らかにするものです。変貌著しい我が国のムラを見つめ直す時、本調査がその契機となれば、幸いであります。

最後になりましたが、これまで調査を御指導いただいた調査委員と調査員の先生方、そして調査に御協力を賜りました国東市教育委員会と地元の方々に厚くお礼申し上げます。

平成二〇年三月

大分県立歴史博物館

館長 渡辺 文雄